

報告書抄録

ふりがな	いなりやま・ごうどいせきだいさんちてんはつつちようさほうこくしょ							
書名	稲荷山・郷戸遺跡第3地点発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名	朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第62集							
編著者名	安田 脩一							
編集機関	朝霞市教育委員会(文化財課)							
所在地	〒351-0007 埼玉県朝霞市岡2-7-22						TEL048-463-2927	
発行年月日	西暦2025(令和7年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
いなりやま ごうど 稲荷山・郷戸 いせきだい ちてん 遺跡第3地点	朝霞市根岸台8丁目 536、537、815-2、820-1、 821-2、-4、-5、-10	11027	008-060	35度 48分 2秒	139度 36分 47秒	1994年 2月1日 ～ 1994年 4月8日	1,537.47	記録保存 調査
所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
稲荷山・郷戸遺跡第3地点		集落跡	縄文時代	集石土坑1基		縄文土器 石器	環濠の一部とみられる。	
			弥生時代	溝1条		弥生土器		
			古墳時代	住居跡1軒		土師器		
			平安時代			ロクロ土師器		
			時期不明	住居跡1軒 竪穴状遺構1基 溝5条 土坑1基 ピット15基				
要 約		稲荷山・郷戸遺跡第3地点は、小支谷に挟まれたやや幅広の舌状台地上の、東側が越戸川の低地へと続く崖線の縁に位置する。 これまでに行われた稲荷山・郷戸遺跡内の発掘調査においては、縄文時代の遺構は散見されるものの遺物の検出は乏しかったが、本調査地点においても、遺構の検出は集石土坑1基と同様に少ないものであったが、調査区全域から、早期捺糸文系、早期条痕文系、中期の阿玉台式のまとまった量の土器片が表採された。 本調査地点の北西側に隣接する稲荷山・郷戸遺跡第8・9地点では、比企地方の岩鼻式の土器が確認されているが、当市を含め武蔵野台地北東縁辺部における弥生時代後期前半の遺構・遺物は、それ以降の集落の隆盛に比して検出事例に限られている。その中で今回の調査では、第3地点から西北西に150m離れた稲荷山・郷戸遺跡第2地点や、前述の第8・9地点の試掘調査にて確認された舌状台地上の平場を囲うように巡らされる環濠と思われる溝の、その一部と考えられる遺構を検出した。また、その多くが表採となったものの、岩鼻式の土器が確認された。 南調査区において、傾斜する確認面に掘り込まれる形の古墳時代後期から終末期の住居跡を検出した。これまでの調査において、稲荷山・郷戸遺跡では当該期の遺構は確認されておらず、未調査となっている第3地点の西側隣接地一帯に遺構の展開が示唆される。						